

第10回阪南みらい会議 会議要旨

○日 時：平成22年5月28日（金）

19:00～21:00

○場 所：市役所3階 全員協議会室

○出席者

委 員	14名（欠席者7名）
アドバイザー	近畿大学 久教授
事 務 局	総務部理事、みらい戦略室5名、 パシフィックコンサルタンツ（株）1名

（1）会議の進め方について

（まとめ）

- ・前回提示された検討項目に基づき、全体会議にて、各委員による阪南市の目指すべき将来像のまとめを発表し、意見交換する。

（2）各委員による発表

- ・「あなたが主役のまちづくり」
 - ・個人の生活：個性を伸ばせるまち、安心・安全のまち、孤独死のないまち
 - ・人と人との関係：助け合いのできる仲間、助け合いのできる社会
 - ・社会と環境との関係：人的・自然資源を活かし、豊かな生活環境を確保する
 - ・仕組み：協働の推進のため、地縁組織のあり方を再考し、地域活動を活性化して、自然と共生できるまち
- ・「日常の中に、豊かな文化（気持ち）と人間関係のつながりが感じられるまち」
 - ・個人の生活：文化（気持ちのゆとり・つながりのきっかけ）のあるまち、治安のよいまち
 - ・人と人との関係：お互いを尊重し、育ちあう関係のあるまち、「お互いさま」
 - ・社会と環境の関係：「未来に引き継ぐ」という視点のあるまち
 - ・仕組み：阪南市の最大の資源である人（人材）を活かす場、育つ場・機会のあるまち
誰のために生きているのかを自然と自覚できるまち
- ・「お互い様で支えあうまち」
 - ・「安全・安心のまち」
健康、近所付き合い、子育て、医療・保健システム、防犯・防災・交通安全、インフラ
 - ・「共に生きる心を大切にするまち」
助け合い・感謝し合い、人に助けられ生きているという自覚、積極的な自助・共助
学校教育や青少年活動の充実、指導者の育成、地域組織活動の推進とネットワーク化、

地域文化の保存・交流、国際交流、各組織の変革と協働の推進

- ・「自然と共生するまち」

地場産業の育成・地産地消の推進、自然や観光資源の活用、市民による自然の保護・改善

- ・「市民が主役」「ひとりひとりが輝く」「市民活動の無限の可能性」「つながり」

市民による主体的な活動が発展し、支えあえるネットワークの場

「心豊かに暮らす」ための市民活動を効果的に実施す仕組み

「誰かと繋がる生活」は「人間として生きるための最低保証」

- ・次のようにまとめられると思う。

- ・ネットワークの構築されたまち
- ・活力を生み出すまち
- ・市民が自立したまち
- ・自然を守るまち
- ・安心・安全なまち
- ・財政の健全なまち

- ・「市民の想いが形になるまち」

公民協働や情報共有の仕組みが必要

自治基本条例の運用による情報共有・情報公開

- ・「世代間交流のあるまち」

「愛着のもてるまち」「近所付き合いのあるまち」

- ・4つのテーマにまとめられると思う。

- ・「安心・安全のまち」：日常生活が営めるまち。公共交通網の充実。
- ・「人と人との絆があるまち」：支えあい、学びあえるまち
- ・「自然と歴史、産業のまち」：恵まれた自然、歴史、地場産業を活かしたまち
- ・「公民協働によるまちづくり」：日常的に話し合いのできるまち

- ・「学ぶ市民が主人公」「連携」：自然を活かしたまちづくり、「地域を知る」、産官学の連携

- ・「安心・安全のまち」「自然と共生するまち」「お互いに助け合うまち」

- ・「『情』のあるまち」：「人情篤く、友情育み、愛情注ごう わがまちへ」、利他の精神

～久教授アドバイス～

- ・まとめ方にはいろいろある。

(例)

- ・ひとつの言葉にいろいろな意味を持たせるまとめ方。

「つながり」：何と何を繋いでいくのか、で異なる解釈を与えることができる。

人と人、海と山、まち（人の集団、地域）とまち、世代間交流、

歴史（時を越えたつながり）、人と自然、観光資源

「情」：ひとつの漢字に異なる意味を与える

人情、友情、愛情、情報、風情

- ・ひとつの柱にいくつもの意味をぶら下げるまとめ方

(3) 今後の進め方について

- ・「安心・安全」「自然・歴史との共生」「人と人とのつながり」「公民協働」を柱としている意見が多いのではないかな。
- ・次回の会議では、キャッチフレーズと、その柱（項目やキーワード）について各自で考えてもちより、全体としてまとめていきたい。
- ・項目やキーワードをまとめるにあたり、意見交換を深めることが必要。
- ・出席人数にもよるが、今回は班に分かれ、それぞれの考えた項目やキーワードを紙に書き、班ごとにキーワードを考え、それに付随した解釈をつける（1時間）。そのあと全体会議でそれぞれのキーワード・解釈について発表し、一本化していく（1時間）。

～久教授アドバイス～

- ・21名全員の総意としての想いを、どういう言い方だと市民全体に上手く伝わるのかの言葉を選んでいくまとめにさしかかっている。
- ・まとめ方のアドバイスとして、全員で共有できなかった、個人の思いの部分を切り捨てないで、「共有できる部分」と「共有できない部分」の2段階でまとめる方法もある。
- ・今の状況を料理に例えると、食材が沢山並んでいるが、何を作るかというところにきている。
- ・また、施策レベルの話は、まとまりにくいけど、「ふわっとした言葉」はまとまりやすい。
- ・まとめ方については、効率や私のアドバイスにこだわる必要はなく、委員が主体的に方法から定めていくほうがよい。

(4) 6月の日程と次回の司会者について

6月10日（木） 19：00～

6月16日（水） 19：00～

6月29日（火） 19：00～

司会者は川田委員、室谷委員とする。